

Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 81 号

-
- | | |
|-----------------------------------------------|--------------------------------|
| ・発行日／2010年6月30日 | ・発行所／クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局／〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2-7-63-1001 草野計雄方 | ・Tel/Fax 054-283-9317 |
| ・郵便振替口座／00150-0-134994 | ・e-mail/cnec-kk@mail.wbs.ne.jp |
| | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
-

「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる」

…ブドウ園の労働者のたとえ…

(新約聖書 マタイによる福音書 20 章 1 節～16 節) 理事長 木ノ内一雄

主イエスは多くのことをたとえで話されました。これはその中の一つで「神の国」についてです。内容は、ブドウ園の主人が労働者を雇うため夜明け前に出かけて行き、広場にいる人々に1日分の賃金(1デナリオン)を支払う約束をしました。そして、9時、12時、午後3時、5時にも出かけて行って同じ条件で労働者を雇いました。日が暮れて賃金を支払う時、後から来た人に順番に1デナリオンを支払いました。ところが、最初から来ていた人たちは、「最後に来たこの連中は、一時間しか働きませんでした。まる一日、暑い中を辛抱して働いたわたしたちと、この連中とを同じ扱いにするとはいけません」と不平を言い出しました。

実を言いますと、私も長い間この主人のしたことは理解できませんでした。ところが10年ほど前、日本キリスト教団からインドに派遣された牧野一穂宣教師を訪問する機会がありました。先生はアラハバードで農業技術を教えておられましたが、インドに来て初めてこの喩えの意味が分かったと言われました。それは、後から来た人が自分と同じようになった時、喜ぶことができるのが神の国だということでした。競争社会に住む私たちは、ともすれば自分だけの豊かさの追求に心を奪われ、人々と分かち合うことの大切さを忘れがちです。しかし、貧しい国の人たちが乏しい中で互いに助け合って生きているのなら、私たちの高慢さは、神の前で裁かれることになるのではないのでしょうか。

私たちは今、西カリマンタンや他のアジアの地域だけでなく、アフリカの国ガーナにも援助の手を広げ、農業に携わる人たちが訓練を受けるための費用を援助しています。

主イエスは私たちに、「発展途上国にいる人たちが、あなたたちと同じように豊かになった時に、一緒に喜ぶことができますか」と問われています。「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる」そのような時、素直に喜べないのが私たちです。しかし、彼らのために心から喜ぶことができるなら、私たちは神の国の一員とされているのです。



ロバン村教会の教会学校

西アフリカのガーナ共和国北部のヤマ(YAMAH)地域で、宣教と教育に活躍しておいでになるアモス・バンマリグ(Amos Banmarigu)師からの便りです。

アモス・バンマリグ師はかつてアジア学院に学ばれました。クリスチャンパートナーズは同師の帰国後、その活動を支援してきました。2009年中の日本からの支援額は約20万円です。

2009年12月に到着した2008年の活動報告を、木ノ内和美理事に紹介していただきます。

ガーナプロジェクト 2008 年活動報告 アモス・バンマリグ

聖名を崇めます。皆様にとってよい1年であったこととお喜び申し上げます。

2008年はヤマ地域にとって祝福に満ちた年となりましたが、同時に困難な1年でもありました。皆様の温かいご支援に心から感謝致します。

宣教活動

宣教活動にとって実り多い年になりました。北ガーナの遠隔地に住む人々に福音伝道を志してきました。CROM(Christian Rural Outreach Ministry)と称する宣教活動は、まだ日は浅いですが、数多くの人々を信仰へと導いてまいりました。目下、9地域で開拓伝道者が9人います。



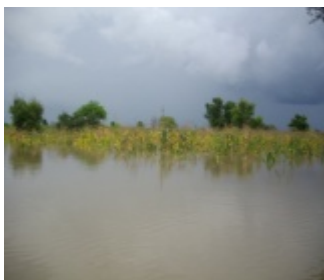
説教を聴きに集まった人々

セネガルで開催されたパートナーズ インターナショナルのリーダーシップ養成講座

セネガルで開催されたリーダーシップ養成講座に西アフリカの一員として参加しました。恵まれた会議で学んだことも多く、今後の活動に生かしていきたいです。この会議以降、西アフリカのパートナーズ インターナショナルに、私たちの祈りの課題を送信しています。

農業実践プロジェクト

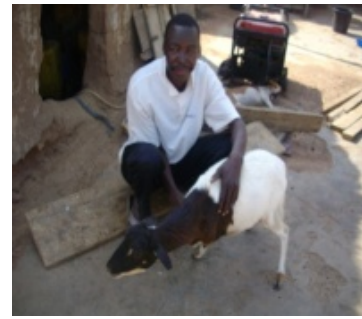
伝道にとって農業は不可欠と位置づけ、このプロジェクトには力を注いでいます。日本の方からの援助により、農作物の種を購入、作付けしましたが、洪水により農地は全て流されてしまいました。農民は腰まで水に浸かって働きましたが、収穫はありませんでした。



チボンバンジム訓練センター

深刻な財政難に見舞われましたが、3つの試験的なプログラムを実施することができ、生徒3名から成る2つのグループが、乾季の園芸、家畜飼育、織物などの訓練を受けました。

乾季の間、スイカ、トマト、玉ねぎ等を栽培しました。生徒たちは穀物の性格、風土に沿った土壌の質、種まき、雑草駆除、有機肥料、水の確保、伝染病対策、収穫、貯蔵、市場の流通機構などを学んでいます。家畜飼育の分野では、ガーナの農場に適した家畜として、羊と豚を飼っています。



収穫物を見せるアモス師と生徒

家畜の飼育

織物

生徒たちは材料がないので、東地区にあるシリグの織物訓練所に見学に行きました。写真は手作りの織物をしている生徒です→。

チボンバムジム訓練所は完全に機能すれば、貧困にあえぐ人々に職業に就く機会が提供できます。しかし、訓練所は深刻な経済危機に見舞われており、多くのプログラムが未だ軌道に乗っていない状態です。この状況が打開され、機能していくよう祈っております。



ヤマ子供の家（養護施設）

子供の家は順調でしたが、嵐によって家が倒壊し、子供たちはホームレスになってしまいました。今のところ一時的な措置が取られています。ホームには24人の子供たちが入居しております。ドイツ人のボランティア2人が子供たちを指導したり、遊んだりしてくれています。洪水により、広範囲の田畑に被害が出、食物が不足するという事態を招いています。勿論、筆記用具やおもちゃやマットレスなどが不足するという問題もあります。子どもたちは精神面の問題も抱えているとはいえ、ホームにいる限り幸せそうです。



保健衛生

ヤマの中学生たちは、環境衛生、HIV- AIDSなどを学習しています。子供の時にこのような学びをすることにより、青年期に実際に問題に直面した時に役立ちます。子どもたちは喜んで学びを続けています。



食料支援

洪水により、広範囲に及ぶ田畑が流れた後、オランダの友人の支援で被災者たちに食糧を購入することができました。援助は多数の人々を助けるには至らないものの、数人の命を救うことができました。

必要としているもののリスト

- * 輸送手段 車、オートバイ、自転車
- * 農村での福音宣教のため、住所登録をする資金
- * 開拓伝道者、牧師の生活費
- * 洪水の被災者や貧困層のための食料支援
- * チブームバンジム訓練所を機能させるための資金
- * ヤマ子供の家の修復資金

終りに、私の宣教活動は深刻な財政危機に見舞われておりますが、神には不可能なことは何もないのですから楽観しています。この地で、御心によって召された主にある兄弟と共に、目の前に置かれた業のすべてを御手に委ね、神の示されるところに従って前進して参ります。

高橋めぐみ宣教師からの報告によると、1年生の時からクリスチャン パートナーズが支援していたベリアナ姉とエビア兄が、神学校における 5 年半の学びと訓練を終えて卒業されたとのことです。（「通信」第 66 号参照）ベリアナ姉はポンティアナック市にある女子大生のための宿舎ザイトン寮で、エビア兄はシントンの教会で奉仕を始められました。

また、ポンティアナックのタンジュンプラ大学で学んでいたデヴィ姉も卒業し、教師として働かれる予定です（「通信」第 69 号参照）。

近くそれぞれの御報告をいただけると期待します。

ロバン村教会の建物と敷地は、私たちが里子支援を始めた頃から購入を希望してきましたが、ようやくその〈時〉が来たようです。

西カリマンタン州のキリスト教団が所有者との困難な交渉を乗り越え、クリスチャン パートナーズからの支援やマレーシアの個人からの献金にシンガポール

PI の援助を得て、隣接した空地を含めて購入ができたそうです。

ロバン村教会の年次報告は次号でお知らせいたします。



【理事会報告】第 161 回理事会は 2010 年 4 月 19 日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2010 年 1・2・3 月会計報告承認。里子・里親異動リスト提示、15 名の里子が異動、里親にも異動があり、現在里親のいない里子は 2 名。ロバン村教会の敷地建物購入のための支援金の受取書到着。木ノ内理事長は今秋の CEO 会議に出席予定。南アフリカの H.M. 氏が、木ノ内理事長のガーナプロジェクト視察に協力する旨の応答があった。「通信」第 81 号はガーナプロジェクトの報告を中心に次回理事会後に発行予定。

第 162 回理事会は 2010 年 6 月 14 日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2010 年 4・5 月会計報告承認。里子からの今年最初の手紙 47 通到着、翻訳後各里親に送付。理事長のガーナ訪問について協議。ロバン村教会の不動産取得完了。「通信」第 81 号は 6 月 30 日発行。米国 PI のルイス氏来訪、次回理事会に出席し、夕食を共にする。アンテオケ宣教会から西カリマンタンに派遣される藤江宣教師の来訪予定。2009 年度決算予測と 2010 年度予算について協議。

<編集後記> 梅雨に入り、急にお暑くなりました。いかがお過ごしですか。このところ日本の四季の変化が測り難く行かず、自然が苦情を申し立てているようで案じられます。ようやくガーナからの報告をお送りできるようになりました。アフリカは遠いですね。通信も交通手段も整っていないところで孤軍奮闘しているバンマリグ師を今後とも支援し続けたいと願っていますので、皆様の御協力をお願いします。地震など自然災害が多発しました。同労団体からの支援アピールにそれぞれお応えしています。皆様からの支援金は有効に用いられております。

向暑の折、皆様の健康が守られますように祈ります。

鳥海百合子